

6 3 6 1 - 1 1 6
平成 1 7 年 9 月 2 7 日

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成 1 7 年度病害虫発生予報第 6 号について
平成 1 7 年度病害虫発生予報第 6 号を発表したので送付します。

平成 1 7 年度病害虫発生予報第 6 号

向こう 1 か月間における農作物の主な病害虫の発生動向は、次のように予想されます。
発生予報の概要

作物名	病害虫名	発生量の 平年比	記載ページ
野菜・花き類	ハスモンヨトウ等のチョウ目害虫	やや少	2
トマト	トマト黄化葉巻病		2
カンキツ類	ミカンハダニ	やや少	3
果樹全般	果樹カメムシ類	やや多	3
チャ	炭疽病	並	4
	チャノコカクモンハマキ	並	4
	チャハマキ	並	4
	チャノホソガ	やや少	4
	カンザワハダニ	多	4
	チャノミドリヒメヨコバイ	やや多	4
	チャノキイロアザミウマ	やや多	4
	クワシロカイガラムシ	多	4

作物の生育状況（9月中旬）

普通期水稲は乳熟期～黄熟期、温州みかんは収穫前～収穫期、茶は秋芽生育期であった。

10月の気象予報

気温は平年並か高い、降水量・日照時間は平年並と予想されている。

（1か月予報 鹿児島地方気象台 9月23日発表）

発生予報の根拠および防除対策

野菜・花き類

1 ハスモンヨトウ等のチョウ目害虫（やや少）

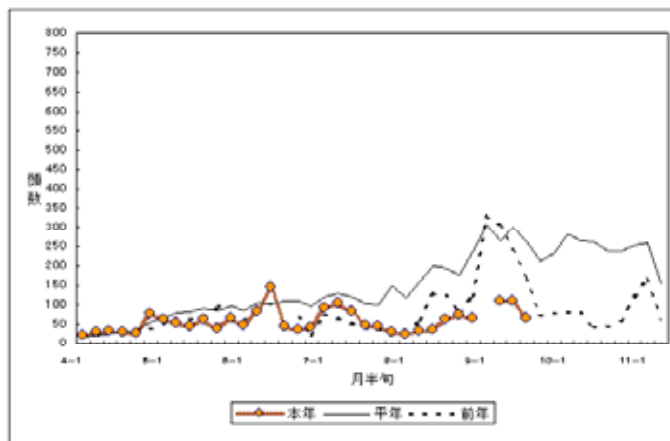
[予報の根拠]

- 1) 9月中旬のダイズでの発生面積率12.5%（平成98.2%）、食害度0.13（平成21.7）は平成より少である。
- 2) 都城市、西都市、佐土原町に設置したフェロモントラップによる誘殺数は、8月以降いずれの地点でも平成より少ない傾向である。
- 3) 西都市茶臼原に設置したフェロモントラップでは、7月中旬～8月上中旬にタバコガ・オオタバコガの誘殺数のピークが見られたが、9月以降は平成並に推移している。

[防除上の注意]

- 1) 幼虫が大きくなると薬剤が効きにくくなるので、早期発見に努め若令幼虫期に防除する。

ハスモンヨトウのフェロモントラップ誘殺数（西都市）



トマト

1 トマト黄化葉巻病

[防除上の注意]

- 1) 県営農支援課が普及センターを通じて取りまとめた調査によると、県内の8月の家庭菜園でのTYLCV発生園率は約51%（去年同期36%）となっており、感染源が増加傾向にある。
- 2) 生育初期（育苗期・定植初期）に感染すると被害が激しく、全滅する場合があるので、ハウスには必ず開口部に0.8mm以下の防虫ネットを設置する。できれば、0.4mm以下の目合いが望ましい。
- 3) 定植時には粒剤処理を行うとともに、栽培期間中を通してシルバーリーフコナジラミの防除を徹底する。また、黄色粘着トラップを設置し、シルバーリーフコナジラミの早期発見・密度抑制に努める。
- 4) 施設内外の雑草及び栽培植物はシルバーリーフコナジラミの増殖源となるので、除草を徹底し栽培目的以外の不要な作物や観葉植物等を栽培しない。
- 5) 発病株は伝染源になるので、根ごと抜き取り、土中に埋めるかビニル袋に入れて枯れるまで密閉する。ウイルスは植物全体に存在しているので発病部位を除去しても伝染源になるため、必ず株全体を除去する。
- 6) シルバーリーフコナジラミについて、最近、薬剤の防除効果が劣る事例が見られるので、適切な薬剤の選択が必要である。

（防除情報第4号 平成17年9月15日発表 参照）

カンキツ類

1 ミカンハダニ (やや少)

[予報の根拠]

- 1) 9月中旬の発生面積率20.0% (平年42.2%)、寄生葉率2.2% (平年12.1%) は平年より少である。
- 2) 今後1か月は、平年同様に晴れの日が多く、気温は高く、降水量は平年並と予想され、ハダニの発生に好適であると考えられる

[防除上の注意]

- 1) 果実に寄生すると外観を損なうので防除を徹底する。
- 2) 生息密度が高くなると防除効果が劣るので、寄生葉率30%、10葉当たり虫数5~10頭を目安に、増殖初期に防除を行う。

果樹全般

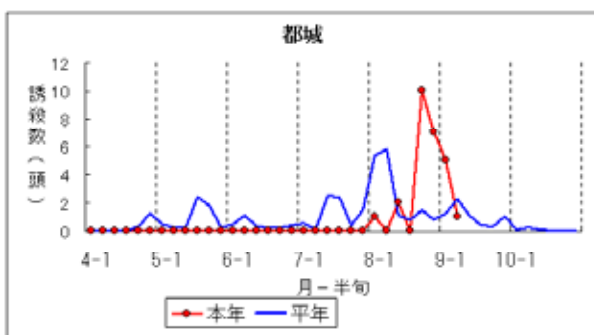
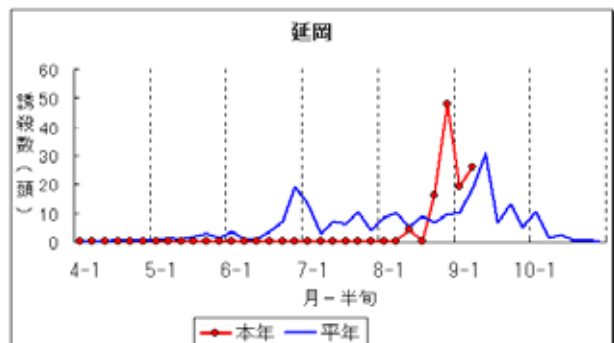
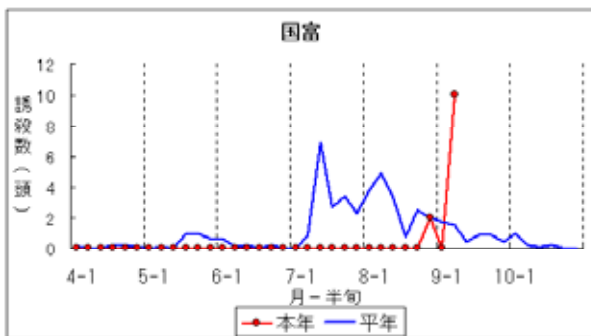
1 果樹カメムシ類 (やや多)

[予報の根拠]

- 1) 県内5か所に設置された予察灯のうち一部地域(都城市、延岡市、国富町)で、8月中旬以降チャバネアオカメムシがやや多く誘殺されている。
- 2) 県北地域の一部のミカン園では8月下旬に、県央沿海部では9月上旬に飛来が確認されている。

[防除上の注意]

- 1) 果樹カメムシ類は園外から飛来し、地域や時期によって発生量が大きく変動するので、園内外を見回り、早期発見・早期防除に努める。



チャ

1 炭疽病 (並)

[予報の根拠]

- 1) 9月中旬の発生面積率41.2%(平年51.1%)、 m^2 当り病葉数3.4(平年5.3)は平年並である。

2 チャノコカクモンハマキ (並)

[予報の根拠]

- 1) 9月中旬のほ場での発生は未確認である。
- 2) 都城市及び三股町に設置したフェロモントラップ調査では、8月6半旬～9月1半旬に発蛾最盛期があり平年並である。

3 チャハマキ (並)

[予報の根拠]

- 1) 9月中旬のほ場での発生は未確認である。

4 チャノホソガ (やや少)

[予報の根拠]

- 1) 9月中旬の発生面積率29.4%(平年58.4%)、 m^2 当たり巻葉数1.7(平年3.5)は平年よりやや少ない。

5 カンザワハダニ (多)

[予報の根拠]

- 1) 9月中旬の発生面積率58.8%(平年34.8%)は平年よりやや多、寄生葉率8.2%(平年2.4%)は平年より多である。

[防除上の注意]

- 1) 防除適期は越冬前の10月中下旬である。本県では冬期でもダニの繁殖が見られるため越冬前の防除がより重要で、この時期の防除が十分でない翌年の茶期への影響が大きい。
- 2) 同一薬剤、系統の連用を避け、作用性の異なる薬剤のロ - テ - ション散布を実施する。

6 チャノミドリヒメヨコバイ (やや多)

[予報の根拠]

- 1) 9月中旬の払い落とし調査による発生面積率58.8%(平年42.6%)、寄生葉率1.5%(平年1.3%)は平年よりやや多い。

7 チャノキイロアザミウマ (やや多)

[予報の根拠]

- 1) 9月中旬の払い落とし調査による発生面積率64.7%(平年31.1%)は平年よりやや多、寄生葉率18.8%(平年2.1%)は平年より多である。

8 クワシロカイガラムシ (多)

[予報の根拠]

- 1) 9月中旬の巡回調査では発生面積率29.4%(平年7.9%)、寄生株率11.2%(平年1.0%)は平年より多である。

[防除上の注意]

- 1) 最近、増加傾向にあるので早期発見に努める。(周縁部から発生しやすい。)
- 2) 防除適期は幼虫ふ化開始から1週間後、または幼虫ふ化最盛期なので、ふ化状況をよく観察して防除する。
- 3) 薬剤散布は、成木園で10a当たり1,000リットル程度を目安に、噴口を茶株の中に差し込むなどして枝幹に十分かかるようにていねいに散布する。

その他

- 1 農薬適用の有無などについては次のホームページで確認する。
日本植物防疫協会ホームページ <http://jppn.ne.jp>
農林水産省ホームページ <http://www.maff.go.jp/nouyaku/>
農薬検査所ホームページ <http://www.acis.go.jp/>
- 2 農薬の使用に当たっては、農薬使用基準の遵守並びに危被害の発生防止に努める。
特に水質汚濁性農薬ベンゾエピン剤（商品名、マリックス乳剤、粒剤等）は使用しないこと。
- 3 発生量（程度）の区分
多 い （高 い） やや多いの外側 10%の度数の入る幅
やや多い （やや高い） 平年並の外側 20%の度数の入る幅
平年並 平年値を中心として 40%の度数の入る幅
やや少ない （やや低い） 平年並の外側 20%の度数の入る幅
少ない （低 い） やや少ないの外側 10%の度数の入る幅
（平年値は過去 10 年間の平均）
- 4 予察情報の種類
病害虫防除・肥料検査センターから発表する情報は次の 5 つです。
 - 1) 予報・・・向こう 1 か月の発生状況を予測し、毎月 25 日前後に発表する。
 - 2) 注意報・・・主要な病害虫の多発生が予想され、かつ早めに防除が必要な場合に発表する。
 - 3) 警報・・・主要な病害虫の大発生が予想され、かつ緊急に防除が必要な場合に発表する。
 - 4) 特殊報・・・県内で初めて発生を認めた病害虫がある時や、病害虫の発生様相が特異な時に発表する。
 - 5) 防除情報・・・注意をうながす必要がある病害虫の発生状況や、各種の防除技術指導情報について随時発表する。

お知らせ (<http://www.jppn.ne.jp/miyazaki/>)

病害虫防除・肥料検査センターでは、ホームページで情報を提供しています。予察情報の根拠となる地域別調査データ、防除対策等を掲載しています。ぜひご利用ください。

【文書取扱】

病害虫防除・肥料検査センター 櫛間

TEL:0985-73-6670 FAX:0985-73-7499

E-mail: byogaichu-hiryo

@pref.miyazaki.lg.jp